

私のカルテ

No 4 4 5

津島市民病院
呼吸器内科部長村上
やすし
靖

肺MAC症について

肺MAC症とは？

はい まっくしょう まい こばくてりうむ あびうむ
肺MAC症は、Mycobacterium aviumと
まい こばくてりうむ いん とらせ らー
Mycobacterium intracellulareという2つの菌によっ
て起こる肺の感染症です。非結核性抗酸菌症とも呼ば
れ、結核と同じ「抗酸菌症」の一種ですが、人から人へ感染
することはありません。

近年、この病気にかかる人は日本で急増しており、過去
20年で患者数は4倍以上に増えたという報告もありま
す。喫煙や持病の有無に関わらず発症する可能性がある
病気であり、誰にとっても他人事ではありません。

どんな症状が出るの？

肺MAC症はゆっくりと進行する病気のため、初期には
症状が目立ちません。病状進行とともに出てくる主な症
状は咳、痰や微熱などであり、風邪と似ているため病院受
診が遅れてしまい、診断が遅くなってしまう事もしばしば
あります。一部の患者さんは、肺の構造が破壊される事によ
って息苦しさ、血痰や体重減少などの症状が出現し、最終
的に命を落としてしまう事もあります。

どのように診断するのか？

まずは胸部X線やCTなどの画像検査を行い、肺MAC
症に特徴的な画像所見の有無を確認します。所見がある
患者さんには、喀痰の培養検査や、血液での抗体検査を
行うことで、確定診断を行います。これらの検査で診断が
確定しない場合は、気管支鏡という「肺の内視鏡検査」や
胃液の培養検査が必要になる場合もあります。

どのように治療するか？

肺MAC症は症状の進行が緩やかな病気のため、診断
を受けた患者さん全員に治療が必要なわけではありま

せん。肺の破壊が進行している、感染している菌の量が多
い、自覚症状が強い、免疫力が弱い場合などに治療を
行います。自然治癒することは少なく薬物治療が必要で、
クラリスロマイシン（またはアジスロマイシン）、エタン
ブトール、リファンピシンという3種類の抗菌薬を長期間
（約2年）飲み続ける事が基本となります。最近では、アリ
ケイス®という新しい抗菌薬吸入剤も開発され、治りが悪
い患者さんには飲み薬に合わせて使う場合があります。
これらの治療薬には一定の副作用がありますが、薬の飲
み忘れがあると、抗菌薬が効きにくい「耐性菌」が生まれ
る可能性があるため、医師の指導のもと根気強く治療を
続けることが大切です。

日常生活で気をつけたいこと

肺MAC症の予防は難しいですが、日常生活での工夫
で感染リスクを減らすことは可能です。肺MAC症の原因
菌は水や土壌、浴室などの湿った場所に存在しています。
風呂場のシャワーヘッド、排水口や加湿器などは定期的
に掃除し、清潔に保ちましょう。ガーデニングなど土壌を
扱う場合は、マスクをつけるなど、土埃をなるべく吸わな
いように注意しましょう。また患者さん自身の体力や免疫
力を維持することも重要です。バランスの取れた食事、適
度な運動、十分な睡眠を確保し、免疫力を落とさないよう
にしましょう。

おわりに

肺MAC症はゆっくり進行するため、発見が遅れがちで
すが、早期発見と適切な治療によって進行を抑え、今ま
で通りの生活を送る事が可能な病気です。咳や痰などの症
状が長引く場合は、「ただの風邪」と決めつけず、お近くの
医療機関に是非相談してみてください。